

今日の反核反戦展2014

11月20日(木)～12月13日(土)

主催 原爆の図 丸木美術館・今日の反核反戦展2014 実行委員会



YES FREEDOM

冒されないアートを

——すべての核・あらゆる戦争にノーを——

今日の反核反戦展2014 呼びかけ人 池田龍雄

戦争は何故起きるのかという問いに、論理的には答えを出すことが可能だが、では、戦争が起きないようにすることは可能か、という問題に答えるのは極めて難しい。だが、その一つの答えと言えるかどうか、わが国はあの大戦争での無残な敗北の結果、その痛切な教訓として、武力を放棄し二度と戦争をしないことを誓い、理想的な平和憲法を創った。けれどもその後、戦争は世界のあちこちで殆ど絶え間なく起きている。テロとの区別もつかないような戦争が……。

何故起きるのか、ここで強いて単純にその理由を考えてみると、先ず要因として、民族・宗教・制度・思想・信条・イデオロギーの相違、対立があり、その上に経済的利益損得のせめぎ合い、争いが憎しみを伴って加わる。それが個人の単位でなく集団や国家の間で起きているのがテロであり戦争なのだ。

経済は、人間の度し難い欲望と感情によって動き、政治は、その経済と不可分の一体である。戦争は政治の最終的形態である、とクラウゼヴィッツは言っている。だとすれば、戦争の究極の原因は、国の経済・産業を担い動かしている当事者たちの「欲望」という名の心的エネルギーの蠢く場の中にあると言わなければならない。一口に欲望と言っても、食欲・性欲という生存本能を根底として、それに付随する物欲・金銭欲・権力欲・支配欲・名誉欲・その他分類するのも困難な、多岐にわたるさまざまな種類がある。それが単に、当事者の個人的な欲望としてではなく、それらが集し絡み合い、政・官・財の集团的欲望すなわち政治の欲望＝国家の欲望となって膨れ上がり、それが他の国の利害と衝突して暴力沙汰となる、それが戦争だ。

ところで「芸術」は本来そのような「政治」とは異なる位地にあるものだ。心と体、形而上と形而下の関係、というべきか。しかし、芸術家もまた「生活」という次元で政治と密接に関わりあざるを得ない、だから芸術が政治と全く無縁であることは不可能なのだ。それからあらぬ陰に陽に、政治は作家の生活を通じて芸術に干渉する。芸術が政治に有害な作用を及ぼさないためでもある。もし、ひとたび非常事態（戦争）が発生すれば、表現の自由など容赦なく踏み躪られる。そのことは、かつての戦争が厭というほど証明してくれた。だからわたしたちは、そのような政治の身勝手な許してはならないのである。

しかるに、この国の政治家たちは、あの敗戦による得難い教訓として立派な平和憲法を作り上げたにもかかわらず、自らが守るべきその憲法を忽ち邪魔者扱いにしようとした。それは、アメリカの帝国主義的世界戦略に乗せられたせいでもあるのだが、ともかくにもこの国を昔の姿に近づけたいとする保守的政治の力学は、戦後絶え間なく復古に向けて作用し続けたのである。特に先の衆院選で自民党の安倍政権が再び咲いて以来、大勝した勢いに乗り、ここぞとばかり「戦後レジームからの脱却」と称して戦前の旧体制への回帰を急ぎ始めた。目指すは、念願の憲法改正(改悪)そして戦争のできる「強く美しい」国造りである。それで、「アベノミクス」とかいうあやかしの景気回復術を弄しながら「特別秘密保護法」をはじめ、矢継ぎ早に幾つもの悪法を成立させてしまった。国益のため、そして同盟国アメリカのためには、戦争も辞さない、という構えである。そのためには原爆もまた廃止するわけにはいかないという。

このような危機的状況の前に、わたしたち美術に携わる者は、政治と芸術の関係について深く思いを致さなければならない。その上で美術（芸術）の表現者は、おのれの仕事が、何者にも命じられたり指示されたりしたものではないこと、全く内発的欲求によるものであることを常に自覚していなければならないのである。

さもなければ、生活という名の内的現実と深く入り込んでいる政治という外的現実が、いつしか芸術を冒していることに気が付かず無頓着になるかも知れない。もし、その内発する欲求以外の様々な欲望がそこに（作品に）混じれば、それはその分だけ芸術の純粋性を失うことになるだろう。作品は汚れてしまう。権力、なにかんずく国家権力は、常に理不尽かつ巧妙な手段を弄して自らの保身とその拡大のために国民を利用するのだ。芸術もまた利用される。だが、芸術は断じて権力に利用されてはならない。権威になびいてはならない。何ものにも冒されてはならないのだ。むしろ、でき得ればこちら側があらをえらるくらの力を見せたいものである。

2014年4月29日

● オープニング・イベント

11月22日(土) 12:30より ★参加自由(当日の入館券が必要です)
交流パーティー、パフォーマンス公演
原爆の図丸木美術館 観音堂前 (雨天の場合は場所を変更します)
★当日12:00に東武東上線森林公園駅南口まで送迎車がです。

パフォーマンス演目 (順番は未定です)

- 大橋範子『human possibility』
- 『日本国憲法全文朗読会』
村田訓吉(歌と舞) 坂本美蘭(音楽・歌) 小森俊明(音楽) 坂田洋一(記録)
- SY プロジェクト『ゼロベクレルプロジェクト』
内田良子(朗読) 万城目純(ダンス) 清水友美(ダンス) 石川雷太(サウンド)
- ZEROVOID『Requiem for a Bad Dream』
圓城寺俊之+ナカガワユウジ(ノイズサウンドインスタレーション)
- 奈良幸琉
- 黒田オサム(ほいと芸)
- スタジオ・ヴォイド/岩田恵(箏)+阿部大輔(尺八)

● 関連企画『中島晴矢展』

2階の丸木美術館アートスペース・ギャラリーにて、美術評論家 福住廉氏のキュレーションによる『中島晴矢展』を同時開催いたします。ぜひご覧下さい。

● 常設展

「原爆の図」連作、「水俣の図」、「南京大虐殺の図」、「アウシュビッツの図」、「水俣・原発・三里塚」、絵本原画、丸木スマ水彩画等



原爆の図 丸木美術館

Maruki Gallery For The Hiroshima Panels いのちへの熱き視線

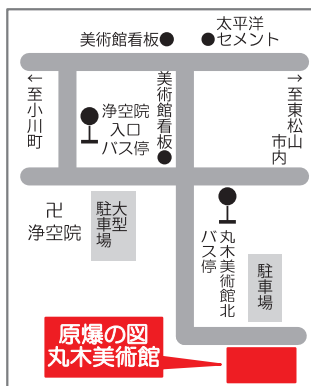
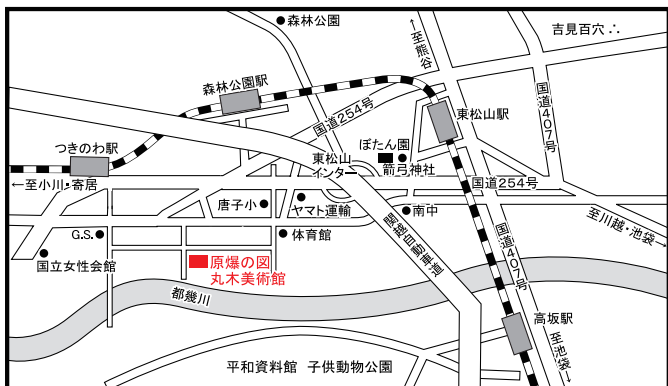
〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子 1401

TEL : 0493-22-3266 URL : <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>

【開館時間】 9:00 ~ 17:00 (月曜休館、祝日の場合は翌平日)

【入館料】 大人 900円 中高生または18歳未満 600円 小学生 400円
団体(20名以上)、60歳以上、チラシ持参者、比企地区在住者 100円割引
障碍(しょうがい)のある方は半額

チラシを持参の方は美術館入館料が100円割引になります。



【交通】 ●東武東上線森林公園駅

南口よりタクシー 10分、徒歩 50分
北口よりレンタサイクル 20分

●東武東上線東松山駅・高坂駅より
市内循環バス唐子コース(日祝休休)
「浄空院入口」「丸木美術館北」下車

●関越自動車道
東松山インターより小川方面 10分

●東武東上線つきのわ駅南口から徒歩 30分、
詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい。

今日の反核反戦展2014 実行委員会: 委員長/増田敏郎
委員/石川雷太、小畑和彦、金子清美、田島和子、中村安子、
村田訓吉、吉岡セイ
フライヤデザイン: 石川雷太